

『70年前の姿を取り戻すために…～one for all , all for one～』

「庄内川って本当に汚いよね。絶対入りたくないもん。」私が庄内川のゴミ拾いに行く前日にクラスメイトから言われた言葉です。私が通学している名城大学附属高等学校の北側には一級河川である庄内川が流れています。庄内川は国土交通省の「全国一級河川の水質現状」における165の河川のうち、平成22年度160位、平成23年度159位と、全国ワースト10の川です。これでは、友人に「汚い川だから入りたくない。」と、言われても反論ができません。庄内川は昔からこのような汚い川だったのでしょうか。

これは、70年前の庄内川の写真です。(右図参照, 名古屋市立守山小学校ホームページより許可を得て転載。)



多くの子供たちが魚をとったり、水で戯れたりする姿が見て取れます。この庄内川で、こんなことができた誰が想像するでしょうか。大人が安心して子供を遊ばせられて、子供が安全に自然と触れ合える環境が少なくなっている昨今の日本、いや世界の環境状況を目の当たりにした瞬間でした。そこで私たちに何かできることはないか、と考え、私が所属する自然科学部では、1975年に設立された「矢田川・庄内川を守る会」の皆さんの活動に参加させていただくことにしました。

直近の活動として挙げられるのは、平成26年5月31日に行われた庄内川クリーンアップ大作戦で、本校裏の河川敷内で行われた清掃活動です。活動の結果、空き缶539個、プラスチック片269個、衣類などの家庭用品322個、と、人的影響によるゴミばかりで、明らかに人々の意識レベルの低さがもたらす結果にただただ唾然とするばかりでした。なぜこのような結果になってしまったのか。私は、人々の心理を3パターンに分けて考えてみました。

- ① みんな捨てるし、ごみをポイ捨てしたからって問題ない。という無関心型。
- ② ポイ捨てはしないが、ゴミ拾いをしようとも思わない。どうせ誰かがやってくれるだろう。という無責任型。
- ③ ポイ捨てしても誰かが拾ってくれるから大丈夫。という責任転嫁型。

そして、①②③に当てはまる人に共通して、なぜポイ捨てや不法投棄がいけないのかを考えたことがないのだろう、という結論に至りました。しかし、今回の活動に参加した自然科学部員向けのアンケートでは「川をきれいにすると気持ちいい」などのポジティブな意見がとでも多かったです。ここまであれば、あと一押しだと思いました。

私は、人間個人の領域である家を、世界に存在するもののすべての源である地球に置き換えて考えることが可能だと思います。個人の家において、使ったものは本来なら利便性のいいであろう所定の位置に戻さなければ埃っぽくなったり、住みにくくなったりする点や、物が増えていくと自分の足場を失う点、そして汚い家はそれ特有の雰囲気を出し、周りにも悪い影響を与える点は、地球で考えると「使ったもの＝ゴミ」もやはり元あった場所に戻さなければ何らかの弊害が出る点、環境が汚染される点、人間のみならず他の動物や生態系にも様々な支障が生じることはわかりきっていますし、現に、絶滅する動物が増えるなど、実害が目に見える形で表されています。特に、本来なら水と土と動物しかいない川にとってプラスチック製品などの自然界にある物質で自然界に無いものを生み出した人間自身が、加工したものへの責任を取らずに誤った方法で捨てるということは由々しき事態なのです。そして、ただ単にゴミを拾うだけでなく、能動的に動けないゴミを燃るべき方法で、燃るべき場所に導くことができるのは人間しかいないという、ゴミ拾いの最も本質的なことを伝えていかなければならないと思いました。

私のこの考えを決定づけたのは、環境学習の一環として参加した平成26年8月6日から8月9日までの四日間でアサヒビール主催の若武者育成塾の活動で日本最大の不法投棄現場である「豊島」に行った時のことでした。

ある処理業者が豊島にシュレッダーダスト、廃油、汚泥等の産業廃棄物を搬入し、目に余るほどの野焼きや不法投棄に豊島の人々は県や警察に訴えますが、ことごとく蔑ろにされます。そして、豊島から程遠い兵庫県警の活躍や豊島の人々の地道な住民運動により、香川県は処理業者及びその経営者を告発します。最初にこの事件が問題視されてから実に59年の歳月が流れ、不法に捨てられたゴミは92万トンにも達していました。

私は、実際の不法投棄現場を見たとき、ゴミによってでき、処理をするために切りくずされていく山肌をみて、言葉を失いました。やはり、一度壊された自然を元に戻すには、沢山の労力、時間、コストがかかること、しかし、強い思いを持つ人たちが集まれば、今まで以上に素晴らしい自然環境にできるということを学び、決意を新たにして真摯に庄内川に向き合おうと思いました。

私は今、部員二人と自然科学部の顧問である土井先生のバックアップを得て、先生方任せではなく、生徒主体で行われるクリーンアップ大作戦を企画しています。具体的には、庄内川の水質調査も定期的の実施してクリーンアップ大作戦の際に公表し、より多くの人に川の現状を知ってもらう機会にしたいです。また、自然科学部員だけでなく本校生徒や、地域の人々にまで活動の幅を広げたいと思っています。しかし環境問題について多くの人が小難しさや少しの羞恥心などを持っているのは確かです。よりシンプルに、よりポピュラーに。この活動が浸透し、環境保全はもちろん、70年前のあの写真のように、庄内川が新たな出会いと友情を育む場となるために私たちはこれからもこの活動を地道にそして革新的に行いたいです。